

パワーリハジャーナル

第3号
2006年7月29日発行
発刊元
NPO法人 鳥取県
パワーリハビリテーション研究会

鳥取県支部は3年目を迎えました

平成16年7月18日に、設立総会と竹内孝仁会長による記念講演会を開催して以来、当支部は早くも3年目を迎えました。

設立以来、県下はもとより全国各地から問い合わせや、事例検討会への参加申し込みなど、設立の目的でもある「利用者の健やかな生活への支援」と「職員の情報交換や技術研鑽」を、このパワーリハ・パワーリハ研究会を通じて実現できているものと確信しています。

さて、パワーリハジャーナル第3号発刊日である7月29日は、平成18年度総会ならびに通算6回目となる事例検討会を開催します。

今回の検討会も、脊髄損傷や脳卒中といった方の事例演題から、事例検討会では初めてとなる運営面での事例と、幅広い演題発表がございます。参加者の皆様には活発な意見を、読者の皆様には、次回以降の事例検討会への参加をご検討いただけたらと思います。



「当院における 介護予防事業への取り組み」 とみます外科プライマリーケアクリニック・松尾憲之

4月の介護保険改正に伴う介護予防の視点から、下肢筋力低下・生活習慣病・円背といった要介護度の軽い外来患者に対し、PRを導入したという演題でした。

まとめの中で松尾さんは、パワーリハを通じて、個人個人の“本当の楽しみ”を見出し、目標を持たせ、社会参加、社会交流を図るなど、さらなる生活の質を高めることが来る介護予防事業への展開していきたいと話されました。

介護予防がさらに重要視される中、パワーリハという有用な手段を用いて重度化を食い止めなければならないことを強く印象づけられました。



通算5回目となる事例検討会を、3月25日(土)琴浦町の石見会館で開催いたしました。
今号では、各演題発表を中心に特集いたします。

第5回事例検討会
を開催

「有料老人ホーム高砂苑でのパワーリハビリテーションの取り組みについて」

有料老人ホーム高砂苑 吉岡靖雄

「こちらの有料老人ホームではパワーリハ中断例が多数見られていると言ったことで、なぜ中断される利用者が多いのか、今後どのような取り組みが必要となるのかを検討しました。」

「やりがいがない」と約2ヶ月で突然中断された95歳男性の例では、勤務態勢からパワーリハに携わる職員が統一されていないことや、初期目標が何でも自分で出来るようになりたいたいと大きすぎ、目標到達す

る喜びが沸かないことが問題であったのではないかと、フロアからの意見がありました。

初期の動機付けはどの施設でも苦慮されている難しい問題であると思いますが、ただパワーリハをしていれば効果が出るといつ訳ではなく、ケアの力（職員の力量や知識）がなければ本人の満足度も数値で表される体力測定の結果も良いものとはならないでしょう。

利用者本人が、「楽しい」「快適」

「またやってみたい」と思っていたけるような場の雰囲気や、利用者のモチベーションを向上させる細やかな気配り取り組みが必要ではないかと感じました。



「ル・サンテリオン鹿野における パワーリハビリの取り組み」 ル・サンテリオン鹿野・高橋豊樹

デイケア利用中の方にパワーリハを導入し、発表された2事例ともにTUGテストの改善・外出の機会の増加など、一定の効果が得られたとの発表でした。

質疑の中で、高橋さんは8呼間の基本リズムが取れない利用者へのアプローチに対し、「8呼間がベストだが、とくにこだわっていない。利用者が快適にパワーリハがきているかに重点を置いている。それに、パワーリハを実施するうちに自然と8呼間のリズムになってくると自分の経験から感じている」と話されました。

また10回を3セット、合計30回の実施に対し「そんなにやるの?」といった拒否反応を示す利用者が多いことから、高橋さんは20回は必ず実施してもらい、残りの10回は、各利用者の余裕があるようなら実施している、という取り組みを実践されているそうです。



「マシントレーニングの実際」 鳥取県パワーリハビリテーション研究会 事務局

事務局からは、「マシントレーニングの実際」と題して、参加者からの要望が多かったマシンの設定法や注意点を発表させていただきました。

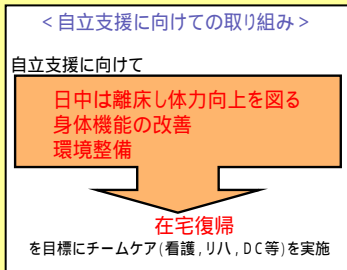
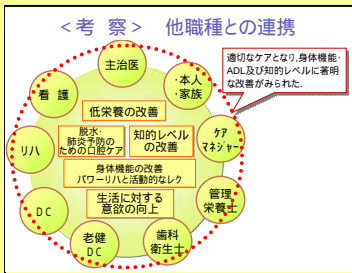


「寝たきりからの脱出」在宅復帰に取り組んで」

森本外科 脳神経外科医院 御船達矢

先日、福岡で行われた「第5回パワーリハ学会」でも同演題を発表された御船さん。事例は67歳男性、くも膜下出血後、他院で入院リハビリテーションを受けたにもかかわらず、ADL向上せず寝たきり全介助であった利用者に、医師・看護・パワーリハケアマネジャーなどの多職種がひとつのチームとなり、自立支援を目指したケアを行いました。結果、わずか3ヶ月で要介護度が4から3に、バーセルインデックスも1点から42点へ血清アルブミン値も向上し、本人・家族共に意識が変わった結果、「ここまで良くなったのだから家で観るしかない」と、決定していた施設入所を中止し、在宅での生活を取り戻された事例でした。

その為には日中離床し、パワーリハや院内デイケア参加し、活動的な生活を行うことで、規則的な生活リズムを確立する。水分量や排泄、口腔ケアや栄養改善といった身体機能の改善を目指したケアマネジメントの視点を盛り込んだ看護・介護計画表を作成し、その為の環境整備を整え、各職種の情報交換・頻繁なカンファレンスや日々の申し送りの徹底を密に行うことで適切なケアとなり、身体機能、ADL及び知的レベルに著明な改善が見られたとのことでした。



御船さんのスライドより

懇親会



検討会終了後の懇親会にも有意義なものです。少しアルコールも入り、堅苦しくない雰囲気の中で他事業所のスタッフさんと気兼ねなくお話が出来る・・・。

懇親会は本当に宝の山だと思います。皆様も是非ご参加下さい。



「介護予防とパワーリハビリテーション」

鳥取県パワーリハビリテーション研究会 支部長 森本益雄

森本支部長は、自身が開院以来約30年に渡り、一貫して行ってきた「自立支援」の歩みをユーモアを交え講演いただきました。

そんな中出会ったパワーリハは、パーキンソン・認知症・廃用症候群などさまざまな疾患に効果があることを、動画を交えて話されました。

参加者アンケートより

「第5回事例検討会」

参加者に対し、アンケートを採りました。
ご協力、ありがとうございました。

(ご意見は、紙面掲載を承諾された方のみ掲載しています)

アンケート回収率について

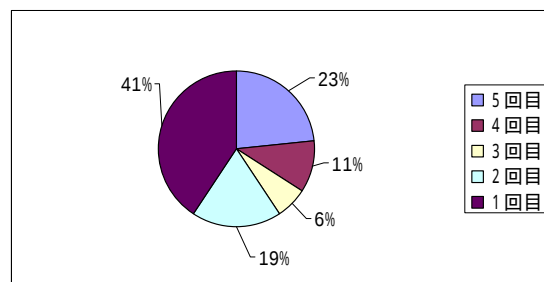
配布数：64枚(名)

回収率：73%

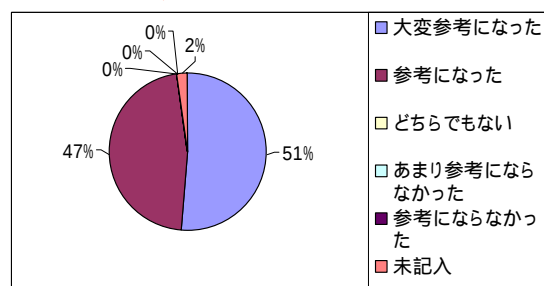
回収数：47枚(名)

アンケート結果

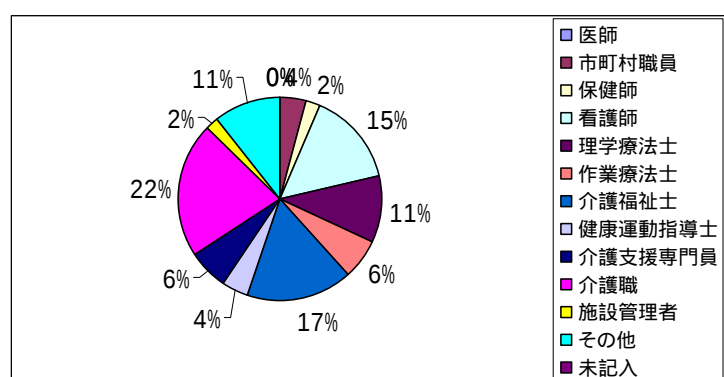
設問2：事例検討会参加回数



設問3：参加されて率直な感想



設問1：参加者の職種



設問4：(設問3)について具体的な意見

- ・演題で、中止者の例などを聞き、自分たちならばどのように対応していくのだろうかと、改めて考えるきっかけとなった。
- ・事例検討会の中身が、パワーリハのみならずケア論にも展開しているようですが、そのような研修会も良い物だと感じた。
- ・ポジショニング等に関するパワーリハの再学習が出来た。
- ・パワーリハの効果は、実施していて嬉しい限りですが、「良くならない」との声も聞かれます。改善点の検討会も行ってもらえると、今後のケアにも行かすことが出来助かります。
- ・小規模の研修会の利点は質疑応答にあると思うので、時間をかなりとっても良いと思います。
- ・パワーリハは、利用者の生活能力の向上において効果が大きいことがわかった。しかし機器の利用だけではなく、職員間の連携・動機付けのための技術も必要であると再確認した。
- ・単なる機械を使って運動すれば体力向上となるものと理解していたが、手段・方法をきちんとしながら利用者がいかに通常生活が出来るかという目的意識を持ち、スタッフ・利用者共に行わなければならないと思いました。